ウェブ展示

春画（しゅんが）を見る、艶本（えほん）を読む展

展示解説
石上阿希
〈立命館大学衣笠総合研究機構 専門研究員〉

監修
細井浩一
〈立命館大学映像学部 教授〉

左／富岡永洗画「八雲のちぎり（やくものちぎり）」
個人コレクション蔵（Ebi1118）
右／歌川国貞画『泉湯新話（せんとうしんわ）』
立命館大学ARC林美一コレクション蔵（hayBKE2-0001）

2014 ［公開日］
8/19㊋より

［主催］立命館大学アート・リサーチセンター
［企画］立命館大学細井研究室

※本展示で公開している作品の多くは性的描写を含んだものとなっておりますが、学術研究としての意義をご理解の上閲覧していただきますようお願い致します。なお、セカンドライフ会場では、同様の趣旨に鑑み、リンデンラボ社のレーティング区分ポリシーを踏まえた上で、同会場のリージョン設定を General に設定しておりますが、18歳未満の入場はご遠慮ください。

バーチャルミュージアム展示

セカンドライフ（立命館大学 SIM）
http://maps.secondlife.com/secondlife/rits-gcoe-jdh/158/56/23
※閲覧にはユーザー登録が必要です。

オンライン展示

立命館大学 アート・リサーチセンター
http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/exhibition/2014/shunga/

修正された春画の図版　林美一『艶本研究 国貞』昭和 38 年（1963）個人蔵

無修正での出版　林美一『江戸枕絵師集成 歌川国貞』平成元年（1989）個人蔵

春画（しゅんが）を見る、艶本（えほん）を読む展

古くは平安時代から制作され、楽しまれてきた日本の春画。本展覧会では主に江戸時代に作られた春画を対象として、当時の社会の中でどのように流通し、読まれてきたのかを探ります。一方、明治へと時代が変わり近代化が進むにつれ、春画の受容は一変します。近代社会において春画がいかに取締を受け、排除されてきたのか。この問題は今もなお続くものであり、文化遺産をめぐる現代の諸問題にも通じるものです。春画をめぐる受容の変遷をたどることで、見えてくるものとは何なのか。本展覧会では、春画を見る・艶本を読むという行為に着目することでその問題を考えていきたいと思います。

「春画」をめぐる受容の状況は現在進行形で変わり続けています。2013 年 10 月から開催された大英博物館の春画展はイギリス国内で高い評価を得ました。しかし、この展覧会の日本巡回は困難を極めており、現段階でも開催は未定です。そこで、立命館大学細井研究室では、仮想空間上での春画展を企画しました。未だ日本社会においては展示に対するタブーがある現状の中で、地理的境界線のないメタバース＝仮想空間でどのように春画を展示できるのか。これからの情報環境における展覧会の可能性を探ることも本展覧会の目的の一つです。

勝川春潮画『艶図美哉花（えどみやげ）』個人コレクション蔵（Ebi1164）

セカンドライフでの展示の様子

メタバース・セカンドライフとは

メタバース（Metaverse）とは、インターネット上に作られた仮想空間を指す言葉です。3D のオンラインゲームなどもメタバースの一つだと言えます。本プロジェクトが用いる「SecondLife」とは米国の Linden Lab 社が提供する仮想空間の一種です。SecondLife は世界中で数十万人を超えるユーザーが利用しており、電子掲示板やブログに並ぶ新たなコミュニケーション手段としての利用が拡大しています。

［お問い合わせ先］　立命館大学アート・リサーチセンター事務局　---　〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
075-466-3411（代表）平日 9:00-17:30　---　arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp　---　http://www.arc.ritsumei.ac.jp/